園長プレス

第1号
平成25年3月25日(月)
編集者
園長中山義紹

プレス内容 少し、変えます

この五年あまり、多い時に年間五回、少ない時には年二回程度、園長　中山　義紹が高平幼稚園の考え方を、その都度　保護者の方に分かって頂きたく「園長プレス」の名称で新聞を作ってきました。幼稚園の場合は、長い園児で、約４年。兄弟姉妹が居ればそれ以上のケースがありますが、短い場合は１年で園を去る場合もあります。時代は、今　目まぐるしく変わっています。保護者の世代や時代感覚も変わるし、情報の収集や伝達の方法も変わっています。私自身の感覚も、我が子が在園していた時と今の保護者の皆さんの感覚とは隔たりを実感する時もあります。園長として、「保育や教育」「あるべき幼稚園の姿」「高平幼稚園の基本姿勢」は変わりませんが、実際の現場の方法論は毎年少しずつ変わっています。改めて、高平幼稚園や園長の考え方をまとめたものは、再度まとめた形で文書に作り上げて示したいと思います。本当は、そういうものを読んだ上で理解、納得、承諾していただきたいた上での入園が理想的です。しかし、一旦文章にまとめようとすると、つい長くなりがちですし、それを読め！と強制するのも無理な話です。何より口で四の五の言うより、こども達の笑顔と成長という実績が無いと意味もありません。園長が「どんな幼稚園にしたいか？」に関しては、園のホームページにリンクしている「熊本の社長」というサイトで約十分ほどのインタビューですが喋っています。興味がある方は、それもご覧戴ければ幸いです。

園行事について

園行事については、学期末配布のクラスだよりで伝えていますし、ＰＴＡの広報委員会でも、毎回工夫をして新聞作りをされて「りんどう」という広報誌を作って広報活動に頑張っておられます。この「園長のプレス」では、行事の報告は割愛させていただきます。

保護者の皆様へ

保護者の皆様には、日頃より園行事や日常の活動、ご理解やご協力を頂き、心より感謝申し上げております。現在、社会状況の変化や国の政策変更の中で、幼稚園という制度や施設自体が存続の危機にさらされています。その為、園と保護者との理解関係が、より良い状態を保つ事ができなければ、子どもにも影響が出てくる危惧もあります。ここで現状の説明をさせて頂きます。

幼稚園をとりまく環境

保護者の皆さんは、あまり興味がない事かも知れませんが、今、日本の政治は政権や制度（例えば消費税問題）が、おそろしい早さで変わっています。同時に幼稚園制度や子育て環境も、目まぐるしく変化しています。子どもの成長は毎日進んでいきます。一方で　制度が変われば、幼稚園の運営も変えざるを得ません。しかし、幼稚園の日常が国の制度のせいで不安定なら、こども達が不幸です。何が変わっているのか？園長はどう考え、幼稚園は、変わるのか？。この状況を踏まえ、私の考えを保護者に少しでも分かって頂き、そして、子どもが幸せに成長していく為の幼稚園という施設と環

破草鞋

私は禅寺の坊主です。私の僧侶としての基本方針として、生きている人の相手が優先順位の一番だと言うのを持論にしています（勿論、葬儀も法事もします）。「話を聞いて貰うためには、こっちを向いて貰うのが先だ」が私の戦略で（だから幼稚園もピカチュウバス）、寺でも、誰でも来れる場所でありたいと願って坐禅会や音楽会を開いてます。去る昨年十月八日には「いま、心にＺＥＮ」と題してイベントをやりました。異文化対話コラボレーションとして、イタリア人の神父様とアメリカ人の禅坊主、それにジャズマンと私の四人で「今、生きている実感」についてのディスカッションをしました（かのスティーブ・ジョブズも禅に傾倒していました）。終わったら、お酒もありの楽しい音楽会（演奏は日本一のジャズベーシスト鈴木良雄とＢａｓｓ Ｔａｌｋ）の素晴らしい演奏で、素敵な時間を共有できました。振り返れば私の世代は日本の一番良い時代を生きてきたのかも知れません。経済成長しかり、音楽文化の発展しかり（典型的な二十世紀少年です）です。今の園児達が大きくなる時に、この国　この世界は、どうなっているでしょう。環境が変わっても人間という生物の本質は変わらない筈です。しかし、環境が、人の性質を変えて「悪有佛生」。人は皆、生まれながらの仏様の筈です。でも欲望や煩悩によって人生が六道輪廻を巡ります。家族が私を人として成長させてくれます。自然や他者によって生存が成立します。人の性の劣化だけは避けたいものです。

境を一緒に作り上げていただきたい。いつも、そういう思いで、一杯です。私は禅宗の坊さんでもあります。考え方のバックボーンには仏教や禅も入っているし、幼稚園の性格にも反映されている部分もあると思います。園と保護者は車の両輪です。その両輪が子どもを育む環境を作っています。その両輪が、逆回転を起こさないように、まずは私からの情報発信の場を作りたいと思っています。そして、この「園長プレス」をそう言う発信基地にしたいと考えます。

諺だけじゃありません

「三つ子の魂、百まで」ということわざがあります。『幼いときに形成された性格は老年期になっても変わらないということ』（明鏡国語辞典より）。だから、三歳までの育ちは大事だというのが古くから格言として言われていることです。一方、近頃、脳科学の発達とともに、乳児期と幼児期の育ち方は、その人の一生（その人の人格形成まで含めて）を左右する大事な事柄である事が明らかになりました。但し、一部で言われている「幼児脳の英才教育や脳力開発」に関しては、諸説ありますので、割愛します。脳科学のような自然科学の分野のみならず、欧米では、データによる実証主義も重要視されています。その結果、**「質の高い就学前教育を　きちんとした保育環境で受けた子どもは、優れた思考力や問題解決能力を発達させる」**という事が国際機関のＯＥＣＤ（先進国経済協力開発機構）によって全世界に浸透しつつあります。

（この実証報告と分析はペリーの実験、ノーベル賞受賞経済学者ヘックマンの社会分析として明確に理論化されています。興味のある方は、園長まで。ただし最低三十分の時間は下さいね）

質の高い教育や保育って何？

では、質の高い幼児教育（保育）って何でしょう？大人がイメージすると「こんな小さな子が、こんな事が出来るようになった！やっぱり幼稚園の教育はすごい」。こんな風に、なるのでしょうか？やっぱり自分の目で見て確認し実感出来るような成果を期待するのは当然だと思います。又、この成果や実績も、先生が園児に対して強い愛情を持って行わなければ、決して実現しません。でも、あと一歩踏み込んで考えてみて下さい。幼児期は、人生のスタートラインに立っている状態です。これからの生き方の基礎を作る時期です。生きていく為の基本のキの字を身体で覚えていく時期です。ここで、しっかり歩き方、進み方、止まり方、考える方法を身につけていないと小学校以降、その子が、人生をうまく歩んでいけなくなると思います。

もう一つ。

「園長は、ひどい喩え方をするなあ」と言われるのを覚悟で申します。子どもが頑張って色々な○○ができるのを見る時の感覚と水族館でイルカの芸を見る時の感動と近いものを感じませんか？我が子が何か出来るようになるのは、嬉しいことです。頑張っている姿を見るのも感動です。でも、それを人に見せて感動させる為には、相当の時間を必要とします。イルカはそれが人生（？）です。でも、子どもの幼児期はとても短いのです。しなければならない事、身につけねばならない事も山ほど有るし、時間も必要です。そして、この大切な時期に、必要な内容を精査して、その子その子にあった方法で、身につくように導く作業と実践（＝教育）を「質の高い幼児教育」と呼びたいと思います。それをきちんと行う為に幼稚園では先生同士、相談しながら、その子にあった指導や対応について研鑽を積んでいます（勿論　園行事も重要な要素です）。

保護者の求める幼稚園とは？

保護者にとって、求める幼稚園の形とは　どの様な施設でしょうか？沢山の保護者がいらっしゃいます。それぞれで様々でしょうが、期待する幼稚園像が時代によって変化しているのは、理屈抜きに感じます。ただ、期待しているもの全てに応える事など不可能です。でも同時に、時代に応じて、変えるべき部分は変えたいと思います。

民主党政権から始まった幼保一体化政策、自民党に戻ってから、名称は現存する「認定子ど

も園」のままですが、内容は平成二十八年には新しい制度に変わると考えて良いようです。多分、大都市部にあるブランド幼稚園（**納金が年額一〇〇万円を超える**ような園）は、そのまま幼稚園の名称で幼稚園として残れそうですが、地方の一般私立幼稚園は新制度の園に移行する事になりそうです。

　預かり保育（延長保育）は、男女共同参画社会の側面からもそうですが、今の社会情勢、特に世帯収入の面から考えても、その必要性は高まっています。この機能だけから考えれば、保育園は　このニーズに応える為の施設です。当然、待機児童も増加しています。保護者が、働く為には、長時間預かって貰い、更にも別途の料金がかからない方が助かります（保育園がそうです）。もしかすると、預かる条件も問わない方が良いという場合もあるでしょう（幼稚園は問いません）。保護者の皆様は、原則として幼稚園という施設の特性をご理解の上、選択されていると思います。幼稚園のように幼児教育を中心に据えた上で、保護者の希望する通りの長時間託児もしてくれる施設があれば一番助かるでしょう。新しい「認定子ども園」は、そういう施設になると内閣府は発表しています。本当にそういう事が可能なのでしょうか？

　今の社会情勢から考えると、このような施設が必要になるのは分かります。しかし、制度を決める国家に求められているのは、当面のニーズに対する対処療法ではなく、これからの日本をどういう社会にしていくかのグランドデザイン、その為には乳幼児をどのように育てるべきかのビジョン作りだと思います。その作業抜きに、単に小手先で制度をいじり、「皆様の要望に答えました」と言う様な、うわべだけの改革めいた作業は逆に危険だと思います。

進むべき方向性

幼保一体化の形を作るワーキングチームに参加した大学教授から言われました。「幼稚園が社会の要求に応える事ができないならば、幼稚園は前世紀の遺物か天然記念物として少数生き残ればいいじゃないか」と。もし、そういう社会になったのなら、残念ですが、高平幼稚園は、潔（いさぎよ）く閉じたいと思います。

　しかし、私はまだ、幼稚園として出来る事や、やるべき事があると思います。難しげな言葉を並べますが、「規範意識の涵養（かんよう）」「他者と自分との関係性の理解　自己確認と協調性の基礎作り」「自己存在の他者からの承認、それに基づく自己実現と問題解決能力の体得」。これらを、幼児期にしっかりと身につけておかないと、成長してから本人が辛い目に合うだけでなく、社会にとっても大きな損失になると思います。

　幼稚園だけが、このような問題を解決できる施設だとは言いませんし、そう思ってもいません。しかし幼稚園は長年の経験と実績で、その方法論を磨いてきた事も事実ですし、それぞれの幼稚園で、その特性を生かしつつ実践し、今も研鑽を積んでいます。家庭でしかできない教育と施設でしかできない教育を見極めた上で、そのバランスを子どもの為に、いかに反映するかを実行する為に特化しているのも、幼稚園の存在価値だと思います。

　制度変更の中で、現在のような幼稚園施設を、現在の形のまま継続していく事は無理になります。実現しようと思えば、最終的には、**保育料を今の3倍**にしなければ無理かも知れません。大都市のブランド幼稚園は、幼稚園のままで存続できるでしょう。しかし、それでは社会の二極化を促進する事になります。園児獲得の為に、機能特化（例えば英才教育）をすれば、大人が喜ぶ子ども像の通りに育てる事も可能でしょう。しかし、幼児期に強制されて何かを身につけさせられた子どもは、思春期以降に反社会的行動を取る傾向が大きくなると言う統計が、諸外国で検証されています。幼稚園が子どもの為に行う努力の結果は、すぐには現れません。その子の十年、二十年後に影響するものだし、その効果と幼稚園を結びつけて考えたりする人もいないでしょう。

しかし　私は、幼稚園教育を一部の人たち、特定の人たちの為に限定したくはありません。保護者として自分の意志で幼児教育を決めようとする人たちに対して、きちんとした幼児教育（保育）を提供したいと思います。その為には、新しい制度を検証した上で、形は変わっても、きちんとした保育ができる施設作りを推し進めたいと思っています。

この数年、幼稚園団体の副理事長を務めています。その中で、制度と現実の狭間に悩みながら、又　色々な研究者と議論していく中で、現在　幼稚園が行っている教育（保育）を無くしてはならないとの思いを強くしました。そして、無くしてはならない幼稚園教育（もし幼稚園がなくなるならば、これを幼児教育と言い換えますが）、即ち本来の意味での**「保育」**というものの存続を最優先に考えるべきだと思っています。先進国の中で教育にかける経費が最低レベルの国である日本。「一番になる」事が重要視される高等教育なら、まだお金も出るのでしょう。しかし、効果が見えない幼児教育には決して目は向かないかも知れません。それならば、その重要性を認識した人間が、できる限り柔軟に対応していく以外は、この「保育」が存続する方法はありません。制度は　これから議論されながら形ができていく事になります。前提としては、認定子ども園への移行が条件になる筈です。そうなれば、少なくとも預かり保育の経費は、保護者の就労状況に応じて市町村が認定して、その分施設に直接支払うという部分は決定済みのようです。介護保険の要介護度の認定と同じように一定の要件で**「要保育度」**が認定されて、お金が出る仕組みになるそうです。ここにも色々な問題は含まれていますが、必要な人に必要な経費が使われる点だけは評価できると思います。保護者の経済的負担は、できるだけで低く、「保育」の質は、できるだけ高い施設作りに向かって、これから取り組んでいく予定です

平成二十五年度の運営

色々と面倒くさいことを書き並べてきました。だからと言って高平幼稚園が、急に無くなるとか、別の形に変わるとか、そういう事はありません。今まで、積み重ねてきた幼稚園教育にさらに磨きをかけて、子どものためのより素晴らしい施設として、子どもが、その持っている可能性を大きく羽ばたかせる為の施設として頑張っていくだけです。ただ、保護者の皆さんに御願いしたい事があります。幼稚園の先生達は、乳幼児のプロフェッショナルの自覚を持って、より良い保育ができるように頑張っていこうと、みんなで力を合わせ、又　こう言う時代だからこそ頑張っていこうと、足許をしっかりと見つめながら再度踏み出し始めています。しかし、子どもは幼稚園だけで育つものではありません。家庭でなければできないこと、親でなければできないことも沢山あります。まず、御願いしたいのは、子どもの話を今まで以上に聞いてあげて下さい。子どもと話す時間を、今より五分でも長くして下さい。そして、子どもをしっかり抱きしめてあげて下さい。親が与える無条件の安心感、これが子どもの人間作りの重要な基礎になります（承認される喜び）。そして、叱るべきは叱らなければなりませんが、褒めてあげる時は、しっかりと褒め倒して下さい（達成感）。承認される安心、達成する喜び、これが乳幼児期の成長には何より不可欠です。

これまでは、幼稚園からの連絡も一方的な部分が多かったと反省しています。幼稚園からの発信も増やしますが、保護者の声をより聞きたいと思います。子どもを中心にして、さらにインタラクティブな関係作りを進めていきたいと考えますので、どうぞ、宜しくお願いします。お互いの声を聞き、お互いに話し合い、幼稚園を子どもの成長の為の素敵な場所にしたいと思います。制度の変更に伴う情報も、より積極的に行いますので、そちらにも関心を持って下さい。**子ども達の幸せの為に。**